



## 3度の転職で感じたこと

話題提供者

小澤英一

ナノテクノロジー総合支援プロジェクトセンター特別研究員

本当のところ転職は、もはや他人事ではない

終身雇用制度が崩壊しはじめ、企業では従来花形とされた産業においても、技術の陳腐化が生じ、従業員の転属やリストラが不可欠となり、これに対処するために個々人は、自己革新を要求されています。もはや連続性に有用性は乏しい、非連続こそがこれからの時代を飾るにふさわしい生き方であるかのような声が行き交っています。しかし、それは本当でしょうか。非連続性のひとつの形態は転職で、私はその転職を3回経験しました。自己研鑽は常に必要ですが、安易に非連続である転職を勧められるかどうかは疑問です。

転職で一番多い例は、「給与や待遇が悪い」、「職場が面白くない」など自分で自分が考えているような処遇を受けていないと感じることから生じています。最近の例では、職場の技術が何らかの理由で成り立たなくなり、転職を迫られることも多くなっています。そしてこうしたケースの場合、転職志向者は、自分にそれだけの力、新しい仕事を吸収する能力があるかよく考える必要があります。決して、いらいらや不満などの些細な理由で転職をすべきではありません。当時の私の場合、自分の仕事に行き詰まりを感じており、そのブレークスルーが可能な分野で働くことを考えて転職をしました。

今日のように、企業に対する要求や社会を支えている科学技術、経済手法等が急速に変化する社会、時代においては、そこに生きる人々もまた、それに対応して変化していかなければなりません。それができなければ、今日を生き抜くことは本当に難しい時代です。こうした情勢に対応するためには、例えば、「30代に新たな能力をつけることで40代を生き抜ける」、「40代でさらに何かを付け加えないと50代を生き抜けない」というような心構えと覚悟が必要です。

転職を生き抜くには

転職を生き抜くためには、ゼロからのスタートの場合、

周囲に自分の実力を早急に認知させられるかどうか最も重要で、これができないとその人の転職も失敗します。これを比較的楽にクリアするためには、なんらかの売り物が必要です。20代であれば、ゼロからのスタートでも努力次第ということもあるかもしれませんが、しかし、30歳を超えると即戦力を要求されるため、仕事に活かせるスキルが必要となります。また、ある程度経験がある人でも、現在より小規模な企業などに転職する場合には、すぐに結果を出して、会社に自己の力を認知させねばなりません。そうしないと、「本当に仕事ができるのか」という疑いの視線を終始向けられることとなります。しかし、このような時でも問題をあまり深刻に考えすぎず、笑い飛ばせるような精神的支柱が必要だと思います。

最初に私が転職した先は、外資系の工業ガスの会社で、そこでは毎日のように英語による生活と工業ガスに関する応用開発への対応を迫られました。並みの日本人の英語力などは知れたもので、3年以上も苦戦が続きました。特に大変だったのは、工業ガスという専門外の研究開発の取り組みでした。半導体デバイス製造に関わるガスのため、ひたすら半導体プロセスについて勉強しました。研究所の確立という役割もあり、慣れないパソコンによる方針発表など、毎日が議論の繰り返しで、緊張の日々でした。しかし実は、40歳を過ぎるころから、新しいことをしようとするとなんとなく億劫な気分が出てきたのも事実です。厭々感を払拭する必要を感じていましたが、その必要性はいつの間にか消滅していました。

当時、仕事の相手は、半導体関連の企業が主でしたが、転職前には考えられなかったようなぞんざいな扱いを受けることもありました。私が金属材料技術研究所の室長をしていた際、お会いしたことのある大学教授を訪ねたときのことで、以前は大変丁寧な対応をしてくれた方ですが、2年ぶりに訪ねてみると、名刺を机にポンと投げられ、しばらく打ち合わせをした後で、そのことに気づき失礼を詫言われたことがあります。また、NEDOの

調査団で海外に行った時のことですが、訪問先で懇談会に参加した際、仲間から「あの人は自分の地位をどんどん下げていく、日本では変わった人」と紹介され苦笑いしたことがあります。転職によって、社会的地位が低下したような感じがしました。

#### 転職の心構え

転職は、周囲から何を言われても、実際に実力を示す以外弁解のしようはありません。しかし、そう思っている、新米はいつも悔しい思いをさせられるものです。そんな時に、私が思いついた言葉が、次の言葉です。

「あなたが私に下している評価よりも私は自分が数段上だと思うが、私が自分で評価する自分よりは低い。」

また、転職には謙虚さや協調性、学ぶ姿勢、そして何よりも健康が大切です。謙虚さや協調性は、組織の中の人間にとって重要と思われるかもしれませんが、むしろ転職で組織を飛び出した人間にこそ必要だと思います。なぜなら、謙虚さや協調性を持たなければ、そういう厳しい環境では誰も自分を守ってくれないからです。ちなみに、私は健康のために45歳からジョギングを始めました。初めのうちは1kmがやっとで、3日で止めてしまったこともあります。しかし、また走り出す。そして少しずつ長い距離を走れるようになる。半年ほど前までは週に2~3回、1回に約15kmを走っていました。こんなふう続けることも大切なことだと考えています。

歳を取ってやり直しをすることは、自分よりも若い人に教を請うようなものです。そんな時、薄っぺらな自我があると、すぐプライドが傷ついてしまいます。このようなことを起こさないひとつの大きなファクターは、その人がそれまでいくつかの小さな成功体験を積み重ねてきたかどうかだと思います。自信と言ってしまえばそれまでですが、その自信は、簡単に手にできるものではありません。しかし、小さな成功の積み重ねはとても大切で、次の機会にはもう少しやってみようというような、リスクを取る気持ちを起こさせてくれます。この小さな成功体験の繰り返しが非常に大切です。

自分が成功者だと思っている人が、若者に冒険せよと言うことがありますが、それは無責任だと思います。もしそのような忠告をするのであれば、どういうふうすべきか具体的に述べる必要があり、ただ苦勞は買って出よというような抽象的な指摘は避けるべきです。

自己革新は、できる若者であれば自ずとするものです。

また、人には転職を勧めていい人と悪い人がいますが、次のような条件を満たす人は転職を勧めても大丈夫な人といえるのではないかと思います。

- 小さな成功体験をいくつか持っている人
- 信念（自分が求めていること）を持っている人
- 自分で決断できる人
- 自分の目標を持っている人
- ある程度のお金がある人

また、転職によっては組織に頼らずに生きなければならないことも想定されますから、先述のように協調性や謙虚さ、柔軟性を持った性格であることが大切です。環境が厳しくなるほど、頑固さや過度の自己主張は、許してもらえません。

#### 私を強固にした民間企業における成功経験

私の場合、幸いにして、半導体デバイス製造におけるハロゲンガスハンドリングや、レーザーアブレーションによるナノ粒子生成とその応用など、いくつかの成功経験を得ることができました。特に、工業ガス企業での成功経験は、私に自信を与えてくれました。当時そこでは販売用ガスの消費分野開拓を狙って、材料製造方法の開発を指向していました。具体的には、CVDを利用したダイヤモンドの合成、シランガスを用いたSi<sub>3</sub>C<sub>4</sub>やSi<sub>3</sub>N<sub>4</sub>の合成などです。しかし、専門外の研究開発であり、あまり成果は得られませんでした。そこで原点にかえり、半導体ガスラインにおけるエッチングプロセス関連設備のトラブルを解決することがガス会社のなすべきことと判断し、ハロゲンガスによる製造設備の腐食問題の解決を目指しました。その結果、当時問題になっていた製造設備の腐食の原因を明らかにし、最もコストパフォーマンスの高いステンレスを提供することができました。

私にとって3度の転職は、まずまず無事に経過しました。しかし、他人から見ると、理解しがたかつたらしく、転職理由を聞かれることがたびたびありました。今、私自身がよかったと思うことは、自分の転職について一度も「しまった」と思わなかったことです。転職を巡る状況は、私にも、また家族にとっても、必ずしもいいことばかりではありませんでした。しかしその都度、確実に自分の能力の向上につながり、自分自身でも満足することができました。私は、何事も心の持ち様で、特にアンハッピーな状態もなんとなく笑って飛ばせるような精神が非常に重要であると感じています。

(2003年2月7日開催) SAT